

令和３年度 第２回八代市総合教育会議 会議録
(令和３年１１月１９日)

令和3年度 第2回八代市総合教育会議 会議録

【開催日】 令和3年11月19日（金）

【場所】 八代市千丁支所 大会議室

【出席者】 中村博生 市長
北岡博 教育長
渡邊裕一 教育委員
松永松喜 教育委員
奥村留美子 教育委員
早田 蛭 教育委員

【出席職員】 佐藤圭太 市長公室長
梅野展文 秘書広報課長
西村一章 危機管理課長
小林和也 危機管理課危機管理係長
白川健次 健康福祉部次長
岩崎龍一 こども未来課長
高崎博文 障がい者支援課長
中 勇二 教育部長
金澤朋範 総務企画部理事（教育部理事併任）
橋口幸雄 教育部次長
福本桂三 教育部次長
松川由美 教育部理事兼教育政策課長
高嶋宏幸 学校教育課長
坂本大輔 学校教育課指導主事
竹下圭一郎 教育施設課長
田中智樹 教育部理事兼生涯学習課長
入佐正夫 教育サポートセンター所長
松村哲治 博物館未来の森ミュージアム副館長

【事務局】 草野弥生 主幹兼教育政策係長
萩本誠子 教育政策課主査

【協議事項】 （１）不登校児童生徒が安心して学べる環境整備と体制づくり
（２）学校体育館等へのエアコン設置など「地域の避難所」としての機能強化

1 開 会 （午後1時00分 開会）

2 市長あいさつ

3 協議事項

(1) 不登校児童生徒が安心して学べる環境整備と体制づくり

高嶋学校教育課長 資料により説明

市長 八代教育事務所と氷川町との協議はこれまでも行っていたのではないかと。

高嶋学校教育課長 これまでも協議を行っていたが、不登校児童生徒の増加状況から、今までどおりのやり方ではなく、具体的な実践を打ち出さないといけないという状況になっており、どの学校でも共通してこれをやっていこうという具体的な取組について協議を行っているところである。

市長 氷川町の不登校児童生徒数は分かるのか。

高嶋学校教育課長 後ほど調べて回答する。

入佐教育サポート
センター所長 資料により説明

早田委員 くま川学級の取組内容で、「入級が適当と認められる者を対象とし」とあるが、対象者でないと通級できないのか。

入佐教育サポート
センター所長 不登校状態で、本人が学校復帰を目指す気持ちがあるかという部分を確かめて、入級を認めることとしている。くま川教室で過ごし、心と体の元気を取り戻して学校に戻る意思があるということが「適当と認められる」というところになる。

早田委員 学校に戻りたくない人は通級できないのか。

入佐教育サポート
センター所長 厳密に区切っている訳ではない。時間はかかっても将来戻りたい気持ちがあるのであれば入級を認めるようにしている。

早田委員 「学校に戻る」という文章だけ見ると堅苦しい気もする。学校に戻る選択肢もあるが、学校に行けなくとも自宅で勉強し立派に進学、就職する子もいるし、学校に行くことだけが全てではないと感じる。時代的にもいろいろな職業の選択がある中

で、学校に戻すことだけではなく、くま川教室でできること、子供たちがやりたいと思うところを尊重できるように、間口を広くつくり、生きるために前向きに考えられるようになればよいと思う。

入佐教育サポート
センター所長

文部科学省も2019年の通知で、社会的自立を大事にしようと打ち出している。くま川教室も適応指導教室であり、その理念を大切に、ご指摘いただいたことも含めて、今後とも取り組んでいきたい。

奥村委員

不登校問題は、多くの教職員、保護者、社会における関心事であり、真剣に考えなければならない。今日は、資料や説明を見ると、何をどう決めるというのではなく、どうしたらよいか、改善策を模索しようという会だと思う。

今日の午前中に出席した退職者の集まりの後で、不登校に関する経験や考えなどを尋ねたところ、ここで紹介したいような経験や取組を聞くことができた。印象的だったのは、上手くいったケースより、とうとう上手くいかなかったというケースであり、保護者とも子供とも心がつながらなかったという担任時代の経験、それゆえ管理職になってからは、その経験を踏まえ、担任を通して何とか対応できるよう学校の体制づくりに努めてきたとのことであった。しかし、今は学校や家庭だけという問題ではなく、社会問題として広く考えないと対応できないのではないかとのことだった。

さらに、地域の大人や社会状況に活力や柔軟性がないと、弱いところに影響が出るのではないかと、不登校についても同じではないかと話し合ったところである。

退職者の話や自身の体験等を踏まえて具体的な対応策として3点上げたい。

①不登校の背景や原因等は全て異なるので、個別対応が大切になる。学校訪問に行くと、まずマンパワー、数が必要でそれから資質だと言われる。担任と子供との関わりが難しいこともあるが、それを含めて出口入口は担任なので、担任が子供と向き合う時間と場所が確保できるように、マンパワーの充実が必要である。

②きっかけは学校や家庭が多いかもしれないが、解決するためには保護者の相談に乗ったり、社会的に働きぶりを支援しないと子供が犠牲になることがある。学校・家庭、地域、行政、医療、福祉などが相談する体制が必要ではないか。

先ほど担当課から学校での新たな取組を検討するとの説明

があったが、同時に、関わりのある方たちがどうしたらよいかじっくり協議する体制が必要ではないか。最近は保護者支援の必要性が高くなっていると聞いている。

③教育サポートセンターから説明があったが、くま川教室の不登校問題に対する意義は非常に深い。数の上では通う子供は少ないと言われるかもしれないが、確実な学校復帰や子供たちの安心感が育成されているのであれば、そのような施設を増やすべきではないかと思う。数の原理で中学生の半数近くが学校へ行ってみようという気持ちにできるのではないか。新たなくま川教室の更なる整備という面で、もう1つでも増やせないか。合併前は旧市教育委員会の中と、千丁中学校の中にと相談できるところが2カ所あった。市の北と南など、近くにないと通いにくい子供がいる。

小学生はくま川教室を利用できないのかというお尋ねがあると聞いている。遠方であれば小学生は断然通いにくくなる。

これからの適応指導教室の機能として、単に受け入れだけではなく相談機能も期待されている。

担任が子供たちのことに専念できるよう、不登校についてはいろいろな機関が協力して、その機関が引き受ける職員を派遣するという体制があるとよいと思う。そうでなければ学校の運営が厳しい状況になっている。

渡邊委員

不登校問題がテーマに取り上げられたことは意義深く、元教員として有難く感じている。今や社会全体で考えるべき国民的課題である。不登校対策やつしろプランや県の重点取組などの話があったが、社会全体で取り組むプランを考えるべきだと思う。不登校やつしろプランは平成23年に立てられたもので古く、これまでの成果と課題の見直しも必要ではないかと思う。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーについては県の配置があるが、欲を言えば市独自の配置も今後必要ではないかと思う。

くま川教室で指導員をしているが、学校とくま川教室との大きな違いは、学校では「あってほしい姿」を目指しているのに対し、くま川教室では、「ありのままの姿」を受け入れることから始めている。

何故不登校になったのか自分でも分からない子供も多数いる。状況は様々だが、卒業後のデータを収集したところ、半年前に卒業した全員が市内外の高校に進学している。時折遊びに来ては高校の様子などのミニ講話をしてくれる子もおり、くま川教室で自立の力を養えたのかなと思っている。

運営上の課題として、施設の老朽化がある。エアコン設置は有り難かった。集団になじめない子もあり、個別指導や教育相談の面では教室が不足している。来年度、くま川教室は30周年を迎える。長い歴史があり、全国に誇る適応指導教室だと自負している。教育サポートセンターの支援のおかげでうまく運営できていると思う。今日は多くの関係者に集まっていたいが、学校の取組、教育委員会の取組だけでなく、全市的な不登校対策が必要だと思う。

私の校長時代の経験で、親が、子供を朝、送り出してくれないことが続き、不登校になった事案もあった。市長部局の担当課と連携し対応したが、そのようなケースが増えているので、市全体で情報を共有し、取り組んでいくことが必要であると思う。

松永委員

施設については、幼稚園跡で、くま川教室となり30年目で古いが、県下でも珍しい市の施設である。不登校が多い現状では必要な施設である。学校へ復帰する子供も増えている。くま川教室への通級希望が増加することを予想しておく必要があると説明があったが、今後どうするかを検討すべき段階に来ているのではないか。

くま川教室の先生たちの努力によって実績が出ているので、もう検討すべき段階であると思う。

市長

いただいた意見に対して考えはどうか。

高嶋学校教育課長

不登校問題については個別対応が必要となるため、マンパワーとして支援員の設置により、心のケアに努めたい。

また、担当課として、子供の心をいち早くキャッチするため、心の肯定感を調べる「^{アイ}iー^チc^エh^エe^ツc^クk」というテストの導入を検討している。目では見えない心のチェック、ケアに努めていきたい。

(前出の氷川町不登校児童生徒数について回答あり)

八代教育事務所管内（八代市と氷川町）では9月末現在で小学生が35人、中学生が168人であり、うち八代市の小学生が34人、中学生が160人である。

奥村委員

退職者の経験談の中で、生活指導に携わっていた時、叱ったり指導する立場であったものの、最後は見守ることしかできず、つながることができなかった事例があり、忘れられないとのことであった。

また、保護者から聞いたのだが、子供が不登校になると、保護者も学校へ行く機会がなくなる。そうすると、保護者が学校や社会と関係が途切れてしまうことになる。いろいろな関係機関が全体で取り組む体制が早くできるとよいと思う。

中教育部長

本会議のテーマについて校長会からの意見を吸い上げる際、併せて対応策の提案もあった。表現の違いはあるものの、奥村委員が退職校長会で聞いて来られた３点と内容的には同じであった。

マンパワーの不足、くま川教室の充実、市全体・県・警察などの関係機関との連携など、現役の先生方も退職された先生方も同じ考えであったということで、改めて必要性を認識した。

今日は市の健康福祉部門や金澤理事にも出席を願った。今後、連携を深め、対策の検討に協力をお願いしたい。

「^{アイ}i-^チc^エh^ッe^クc^クk」は次年度予算で要求している。

市長

くま川教室に通級した子供たちの進路を尋ねたいと思っていたが、全員進学で元気に通っていると聞き、うれしく思った。くま川教室の先生方がそれだけ努力されているということだと思う。

あとはくま川教室以外の学校での課題だが、マンパワー不足が一番という声であり、どうにかしないといけないと思う。

不登校児童生徒数が、国や県平均と比べかなり大きい。全市挙げて関係機関が協力するという意見があったが、そのような体制づくりが必要かと思うので、引き続き対応をよろしく願います。

教育長

老朽化しているくま川教室については、少しずつ施設の改善を図っているが、大きな改善には至っていないのが現状である。今後は、本日の意見のように、設置数や人材の確保、適応指導教室に適した閑静な立地であるかなど、様々な課題がある。くま川教室では、指導員の先生方が粘り強い個別の指導を行っていただいているからこそ実績が上がっている。設置数を増やしていく中で、学校の教職員が不足している現状があるので、くま川教室の指導員をどう確保するかも課題の一つである。持続可能な施設とするために、諸々の課題について検討していきたいと思う。

市長

先ほど、市の北部と南部に設置をとの意見があったが、くま川教室が古いと、以前から要望はあるものの今のところ実現で

きておらず残念である。

不登校の子供の数は分かっているのだから、静かな環境を探し当てても北と南に設置して、自宅から近くなれば通級する子供も増えるかもしれない。

今のくま川教室は実績を上げているのだから、そのような思いで取組を進めるのも一つの考え方だと思うので、よろしくお願いします。

田中生涯学習課長

地域での取組として社会教育の分野で、現在、試験的な取組を行っているので紹介する。

地域学校協働活動事業により、今年度で各学校へ地域と学校をつなぐコーディネーターを100パーセント配置し、来年度から中身を深めていくところであるが、その中で地域未来塾という取組がある。経済的な理由や家庭の事情によって学習が困難である生徒たちに学習支援を行っている。

その地域未来塾の延長で、学校に来たが教室に入れない別室登校の児童生徒に対して、子供たちの居場所づくりのため、週に1～2回生徒指導の支援員が不在となる日に、地域の教職員OBや主任児童員等に来ていただき、学習支援や話し相手をお願いしている。試験的であり学校数は少ないが、学校と地域で一緒に取組を進めている。

(2) 学校体育館等へのエアコン設置など「地域の避難所」としての機能強化

西村危機管理課長

資料及びモニターにより説明

奥村委員

テーマとしての提案を聞いた時に、重要な問題なので、本会議にかけずに早く着手してはどうかと思った。

熊本地震では、私の母も避難所に行くか迷い、結局は自宅の車の中で避難生活を送ったことがあった。予算について記載があるが、事業の見通しや状況はどうか。

西村危機管理課長

次年度の予算要求の準備を進めているところである。

奥村委員

くま川教室も同じで、予算の見通しの問題はあると思うが、今やらなければならないというものもある。教育も災害も、今やらなければ後の祭りになりかねないので、うまくいくようにお願いしたい。

市長

災害対策は、皆が早く取り組むべきという意識であるので、

(期待に沿える) 確率が高いと思う。

松永委員 予算が20校区で記載されているが、維持費はどのくらいか。

西村危機管理課長 額はすぐには出ないが、営繕課の情報では空調の設備の種類にもよるが、保守管理、委託料諸々が必要となると聞いている。

早田委員 麦島小と八竜小の校区で工事が始まるようだが、2校以外ではどこが対象となるのか。

西村危機管理課長 麦島小と八竜小の他、全部で20校区あるので、1校区当たり1カ所を対象とする予定である。

早田委員 八代が抱える災害としては地震と水害があると思う。昨年の豪雨災害では、よく堤防がもったと思った。過去の文献によると、昨年ほど降っていなくても堤防が決壊して浸水している。平野部であり、決壊すれば市内全域が浸かってしまう。八代市内は浸水エリアに指定されており、費用をかけても、浸水した時にどれだけの避難所が使えるのか心配する。宮地、高田、植柳、金剛、代陽校区なども浸水の想定が出ている。体育館の高さはどうなのか。浸水すればエアコンが使えなくなる可能性がある。室外機を高い所に設置するなども検討した上で対策をとってほしい。

渡邊委員 熊本地震の時は、校区により避難所へ避難する人数の偏りがあった。地域住民にとって、避難を渋ることなく、そこに行きたいと思えるような安全安心な避難所の充実は、重要なことだと思う。

避難生活の中で、トイレの状況で苦勞されていた学校もあった。詰まりがある、掃除がしにくい、多目的トイレがない、体育館の中になど、学校により状況は様々だが、避難所についてトイレの整備状況はどうか。

西村危機管理課長 学校施設に限らずコミュニティセンターにも言えることだが、高田地区においてマンホールトイレが設置されている。今後、避難所施設の充実のためには、各地域に整備が必要であるが、どうしても長期的な計画になる。段ボールの簡易トイレも備蓄しており、利用しながらトイレの問題が発生しないように対処していく。

竹下教育施設課長

屋外トイレは全ての学校にあるわけではなく、屋外トイレのあるところでも多目的トイレが全てあるわけではない。体育館の中のトイレも、ある学校とない学校があるという状況である。

ただし、屋外の多目的トイレは無理でも、手すりの設置や洋式化等を進め、避難した時に使いやすいように少しずつでも改修を行っている。

市長

学校トイレの洋式化も順次進めているが、屋外のトイレについても併せた形で整備していく必要があると思っているので検討しながら進めさせていただきたい。

昨年の豪雨災害では、総合体育館と千丁のコミュニティセンターが避難所になった。これは空調のある施設が2カ所だけだったためである。その後、球磨人吉の方から避難所の引受依頼があったが、既にいっぱいであったため、氷川町にお願いして竜翔センターに引き受けていただいた経緯もあった。

熊本地震があったが、八代市には日奈久断層があり、いつ何時発生するか分からないので、エアコンは必要だろうという思いで話をさせていただいた。意見を参考に、よりよい避難所となるようエアコン設置を進めていきたい。

奥村委員

不登校問題や避難所へのエアコン設置も、会議に出席したので重要な問題だと分かるが、地域や学校に戻るとそのような情報はあまり伝わっていない。こんな施設やルールがあるということが住民に伝わるよう、繰り返し丁寧に説明をお願いしたい。

市長

教育分野の課題については、全市挙げて取り組まないと厳しい状況である。引き続き現場の学校は勿論、いろいろな団体等と取り組まなければならないと思う。引き続き、意見等よろしくをお願いしたい。

4 その他
事務局

次回の総合教育会議については、2月か3月に開催を予定しているので、ご協力をお願いします。

5 閉会

(午後2時25分 閉会)